



株式会社フリークアウト・ホールディングス
(東証グロース：6094)

2024年9月期 第1四半期
決算説明資料

2024年2月14日

人に人らしい仕事を。

Give People Work That Requires A Person.

近年、AI技術の躍進により、企業はデジタル変革への取り組みをより一層強化しています。しかし、我々フリークアウトは、AI技術による変革の核心は、単に既存の業務効率を向上させるだけではなく、新たな価値を生み出すことにあると考えています。すなわち、我々が目指すのは、AI技術による効率化で生まれた新しい時間、考え方によって、今までにない新しい価値を人が作り出す、「**人らしい仕事**」の**創造**です。これにより、AI技術の進歩が、仕事を奪われるというネガティブなものではなく、人々にとって希望に満ちたものとなることを願っています。

これからも我々フリークアウトは、「**人に人らしい仕事を**」をミッションに、AI技術の躍進の波に乗りながらも、人間が持つ創造性や感性を大切にしていきます。それによって、単なる効率化だけでなく、独自の要素や革新的なアイデアを社会に対してもたらすことができるでしょう。フリークアウトは、AI技術を最大限活用しつつ、人間が持つ独自性と共存・共栄する未来を実現することを目指しています。

代表取締役社長 Global CEO
本田 謙

売上	EBITDA	営業利益	当期純利益	時価総額*1
306	34.5	16.1	78.7	155
億円	億円	億円	億円	億円

広告事業

インフルエンサー
マーケティング事業

日本		北米	アジア
売上 (DSP、アドプラットフォーム等)	タクシーサイネージ シェア (都内)*2	売上	売上
63	62.2%	165	77
億円		億円	億円
FY23		FY23	FY23



参考：売上231億円
(2023年5月期実績)
※当社連結前

1) 2023年12月29日終値で計算
2) 分子は都内のIRIS社タクシーサイネージ導入タクシー台数、分母は都内のタクシー台数

- ・ アドテク業界のトップテクノロジーベンダーとして、多方面へプロダクトを展開
- ・ 日本をはじめアドテク最大市場である米国、アジアにグローバル展開

広告事業

広告事業 (日本)

広告主向け



国内最大級の広告在庫を保有するDSP



位置情報マーケティングプラットフォーム



デジタル広告コンサル・運用サービス



コンテクスチュアルターゲティングによるYouTube広告枠買付

広告主 & メディア向け



コンテンツUIと親和性の高い広告フォーマットによるアドネットワーク

メディア向け



Scarlet

広告枠の開発・販売・運用まで広告プラットフォームの構築を一気通貫で支援するソリューション

TOKYO PRIME

プレミアムなデジタルサイネージ (タクシー) 広告



STORE GEEK

リテール向け



小売事業者向けインターネット広告配信プラットフォーム

広告事業 (海外)

北米



メディア収益最大化を支援するプラットフォームサービス

アジア



(台湾)

MAプラットフォームを活用したトレーディングデスク、メディア収益化支援



(中国・インドネシア・台湾 など)

フリークアウト海外拠点によるグループプロダクト販売、アプリディベロッパー向けマーケティング支援

新領域事業・投資事業

ベンチャー投資

FreakOut Shinsei Fund
ベンチャーキャピタルファンドの運営 (新生企業投資との共同運営)

次世代型チャット

Jent (未連結) ボット+有人のハイブリッド型チャット接客

インフルエンサーマーケティング事業



国内最大級のコンテンツクリエイターネットワークを保有するインフルエンサーマーケティングカンパニー

- Section1 エグゼクティブサマリ
- Section2 2024年9月期 第1四半期決算の概要
- Section3 2024年9月期 業績予想について
- Section4 事業の進捗（日本）
- Section5 事業の進捗（北米）
- Section6 事業の進捗（アジア）
- Section7 事業の進捗（インフルエンサーマーケティング）

※ 本決算説明資料の基礎データの一部は、IRライブラリからExcelファイルでダウンロードいただけます。
(ダウンロードリンクは[こちら](#))

Section1 エグゼクティブサマリ

2024年9月期 第1四半期 売上高136億円（前年同四半期比+39.4%）、売上総利益 40.0億円（同+37.1%）、EBITDA8.1億円（同▲41.1%）で着地

- UUUMのPL連結を開始（売上高54.6億円、EBITDA0.9億円の業績貢献）
- 北米事業は、売上高前年同四半期▲23.3%の47.3億円、EBITDAは前年同四半期比▲39.0%の5.8億円で着地。前年比では大きくマイナスも、社内見通しを大幅に上回り推移（但し、再成長については第3四半期以降）
- アジア事業が中国拠点、adGeekの苦戦の影響で落ち込むほか、IRISも前年比でマイナス

2024年9月期 連結業績予想 営業利益2億円、EBITDA20億円

- UUUMの連結子会社化の会計処理が確定し、のれん・無形資産の償却額が確定したことに伴い、従前のEBITDAに加えて営業利益を開示

第2四半期以降の見通し IRISは回復も、アジアは引き続き苦戦する見込み

- 北米の新規クライアント獲得は順調に進むも、収益貢献は第3四半期以降を想定
- その他第1四半期で前年比マイナスとなった事業のうち、IRISは回復見込み。一方でアジアについては中国拠点、adGeekの苦戦が第2四半期も継続する見込み

Section2 2024年9月期 第1四半期決算の概要

連結売上高

135.8億円 (前年同四半期比 + 38.4億円、 + 39.4%)

- ・ 日本16.6億円、前年同四半期とほぼ同じ (▲0.1億円)
- ・ 北米47.3億円、前年同四半期比▲14.4億円 (ドルベースでの実績はSection5)
- ・ アジア20.3億円、前年同四半期比▲2.5億円
- ・ インフルエンサーマーケティング54.6億円

連結EBITDA

8.1億円 (前年同四半期比▲5.6億円、 ▲41.1%)

- ・ 日本3.7億円、前年同四半期比▲1.4億円 (▲25.9%)
- ・ 北米5.8億円、前年同四半期比▲3.7億円 (▲39.0%)
- ・ アジア0.2億円、前年同四半期比▲1.3億円 (▲83.8%)
- ・ インフルエンサーマーケティング0.9億円

連結経常利益

2.0億円 (前年同四半期比▲6.2億円)

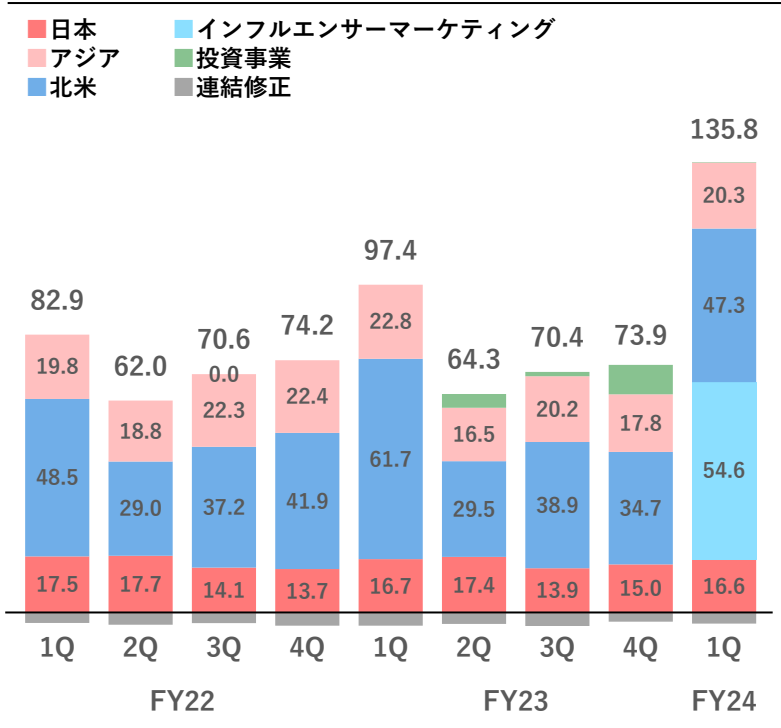
- ・ 為替差損 (▲2.1億円)

- ・ 営業利益：**3.7億円**
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益：**▲0.4億円**
- ・ UUUM社の子会社化に伴う償却費 (のれん・無形資産) が合計で約1.7億円/四半期発生 (今後も継続)

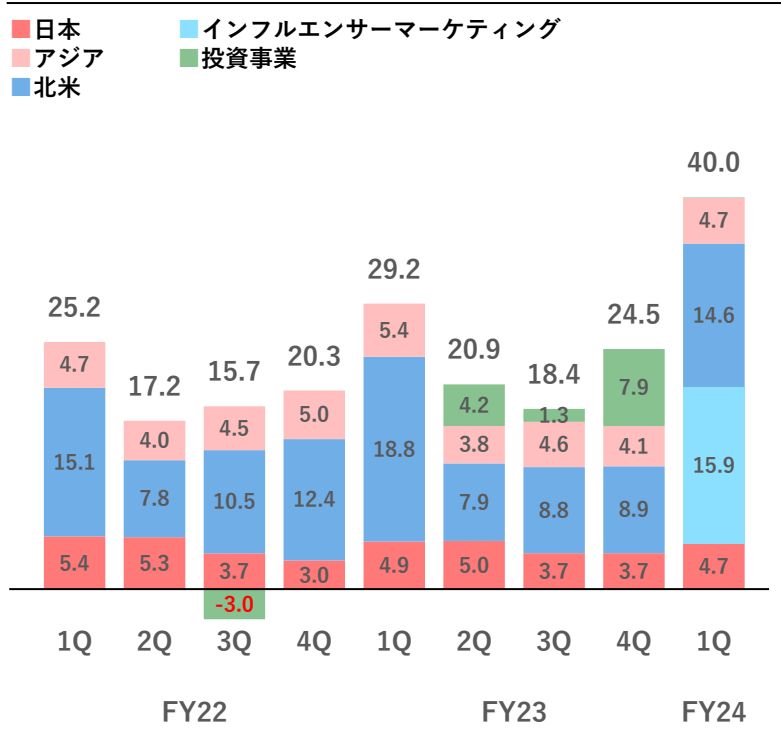
- 売上、売上総利益は過去最高を大幅に更新
- EBITDAは北米、アジア、IRISの前年比減の影響もあり、前年比約60%の8.0億円（事業別の詳細は各Sectionで）
- UUUMのPL連結取り込みが開始（第1四半期は売上高54.6億円、EBITDAは0.9億円）

単位:億円

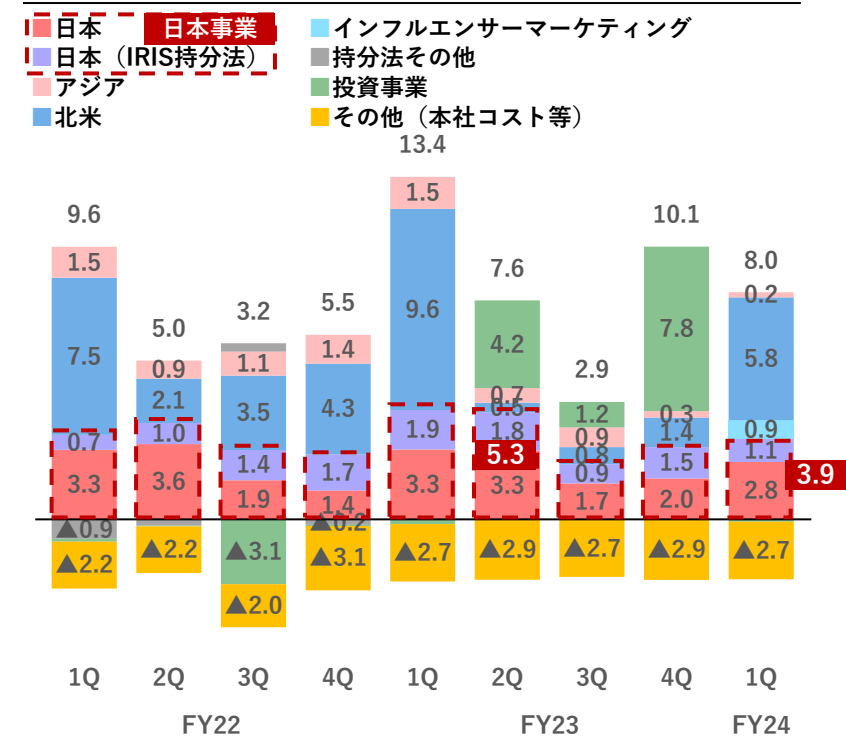
売上



売上総利益



EBITDA



- UUUMの子会社化に伴うのれん償却費、無形資産減価償却費の計上が開始（約1.7億円）
- 株式報酬費用については、前中期経営計画に係るものの計上が第1四半期で完了したため、今後は新中期経営計画（26年9月期のEBITDA60億円）の達成見込みに応じて計上する予定

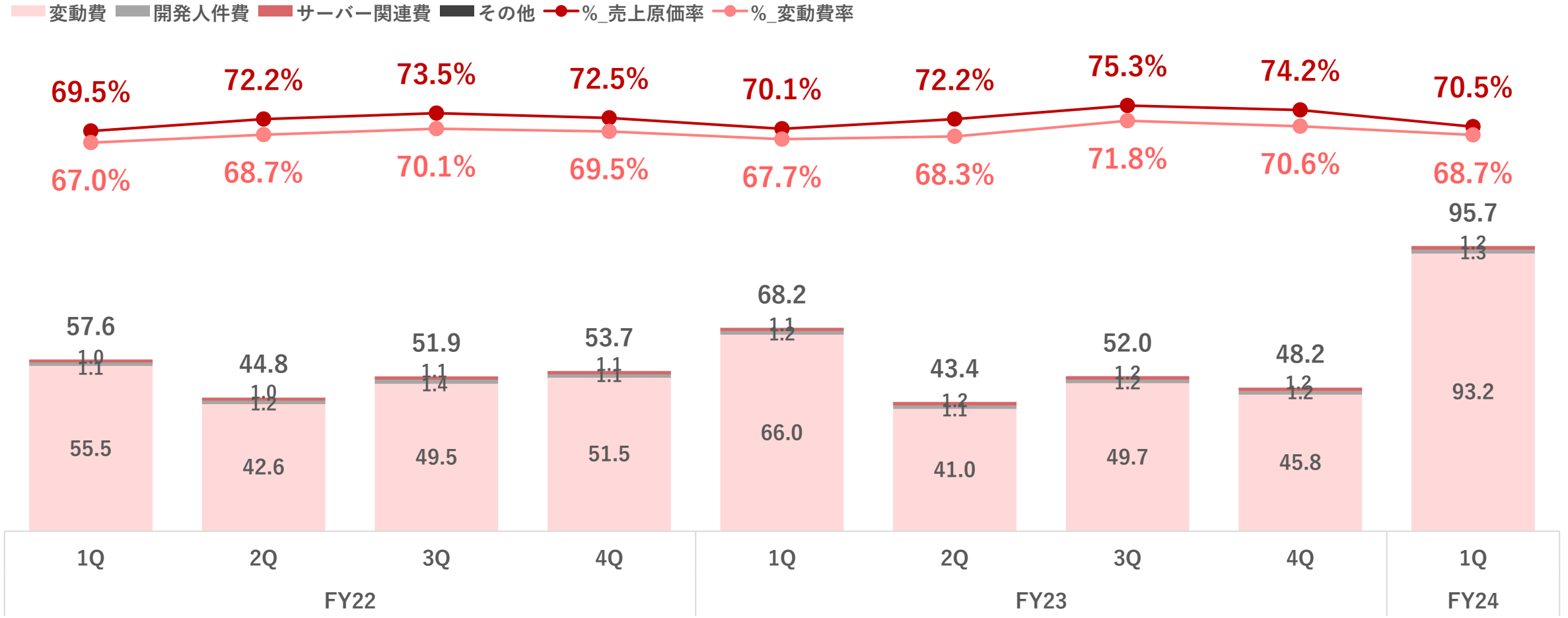
	FY23				FY24
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業利益	10.1	2.0	▲0.1	4.1	3.7
持分法投資利益	1.8	2.5	1.0	1.6	0.8
のれん償却費	0.3	0.3	0.3	0.3	1.1
減価償却費	1.0	1.1	1.2	1.3	1.9
株式報酬費用	0.5	0.5	0.5	1.2	0.6
株式取得・売却関連費用*1	-	1.4	-	1.6	-
EBITDA	13.7	7.8	2.9	10.1	8.1
のれん償却費	▲0.3	▲0.3	▲0.3	▲0.3	▲1.1
減価償却費	▲1.0	▲1.1	▲1.2	▲1.3	▲1.9
株式報酬費用	▲0.5	▲0.5	▲0.5	▲1.2	▲0.6
株式取得・売却関連費用	-	▲1.4	-	▲1.6	-
その他（為替差損益等）	▲3.7	0.3	3.3	0.4	▲2.5
経常利益	8.2	4.9	4.2	6.1	2.0
為替差損益	▲3.6	0.4	3.4	1.3	▲2.1
経常利益（為替差損益除く）	11.8	4.5	0.9	4.8	4.1

単位:億円

*1. 株式取得・売却関連費用はM&A（取得・売却）に伴って発生する費用の集計

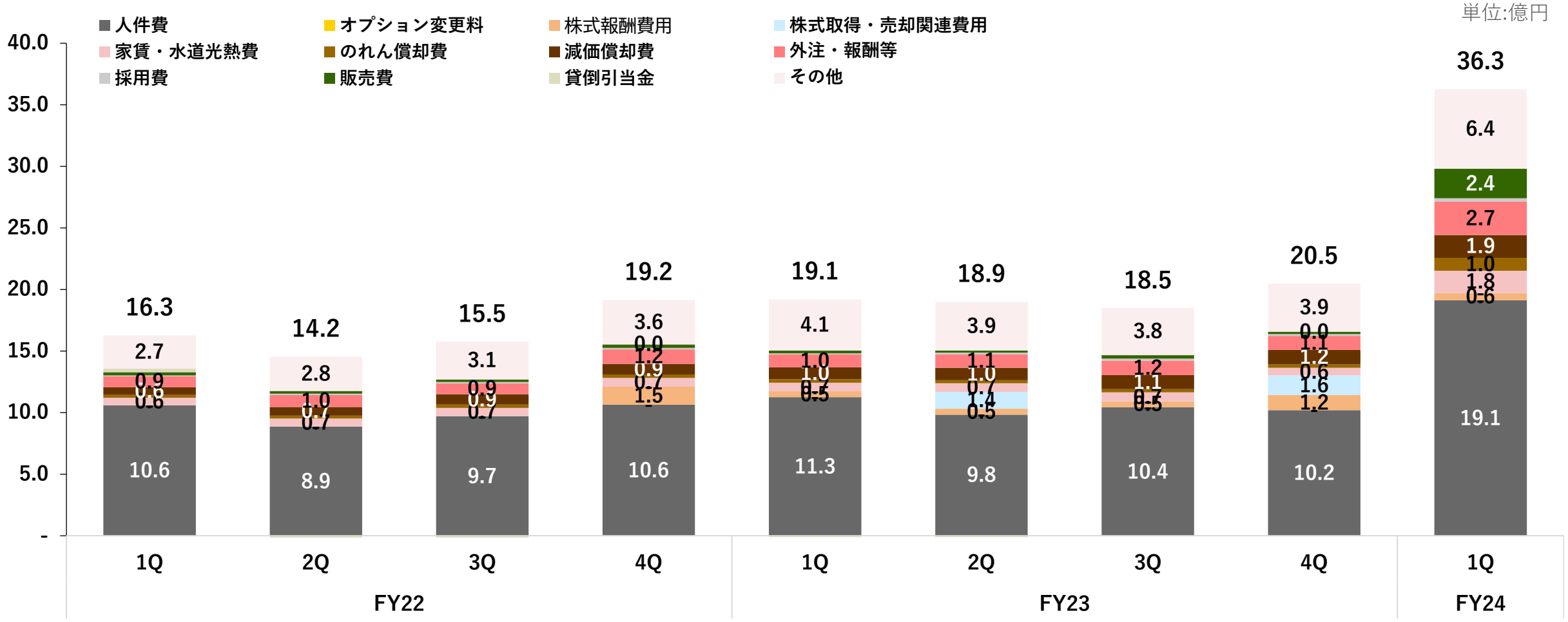
・ UUUMの連結開始により総額が大きく変動するも、プロダクト別の大きな粗利率の増減はなし

単位:億円



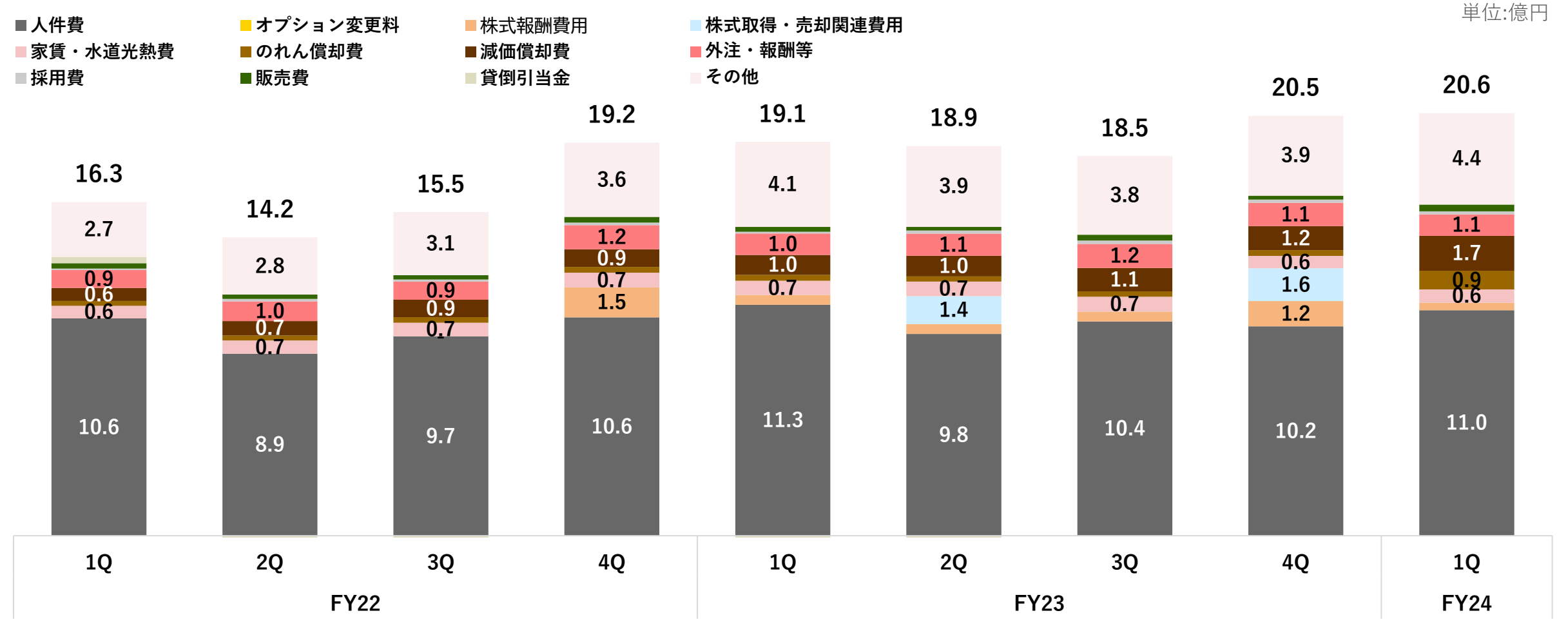
*主要事業の売上原価を比較するために、投資事業による売上・原価への影響を除いた

・ UUUMの連結開始により連結販売管理費が大幅増（比較可能性のため、既存事業のみの推移を次のスライドで整理）



連結販売管理費の推移（既存事業のみ）

- 対前年で+1.5億円増加も、UUUMの子会社化によるのれん・無形資産の償却費増加が主要因
- 第2四半期以降は、季節性及び株式報酬費用減少の影響などで、19億円強の水準で推移見込み



- UUUM連結により、23年9月期第4四半期以降千人規模で推移
- UUUMの人員最適化が進行中（574名⇒537名）

単位:人

	FY23				FY24
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
日本	109	112	115	113	112
北米	91	97	93	91	89
アジア	242	243	238	229	244
UUUM				574	537
その他（本社等）	44	43	42	47	43
グループ合計	486	495	488	1,054	1,025

Section3 2024年9月期業績予想について

- UUUMの子会社化によるのれん、無形資産償却費の増加額を反映し、営業利益の業績予想を開示
- 経常利益以下については、為替相場の変動の影響などが読めないため引き続き非開示

単位:億円

	FY23 実績	FY24 業績予想
EBITDA	34.5	20.0
持分法投資利益	▲7.0	▲6.7
減価償却費+のれん償却費	▲5.8	▲12.9
株式報酬費用	▲2.7	▲1.0
株式取得・売却関連費用*1	▲3.0	-
第1四半期EBITDA上振れ分-2Q以降のバッファー	-	2.6
営業利益	16.1	2.0
持分法投資利益	7.0	6.7
その他（為替差損益等）	0.3	?
経常利益	23.4	非開示

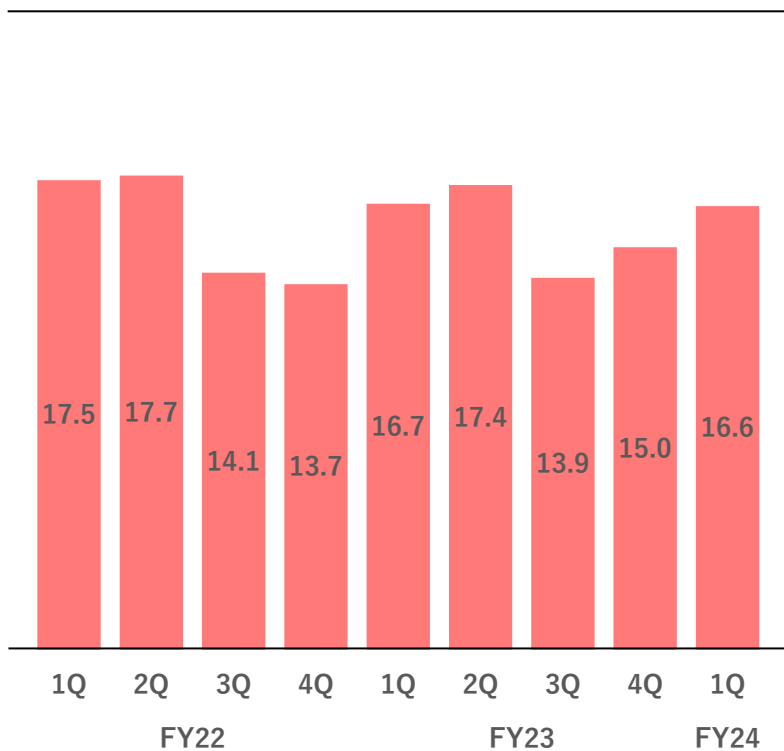
*1. 株式取得・売却関連費用はM&A（取得・売却）に伴って発生する費用の集計

Section4 事業の進捗（日本）

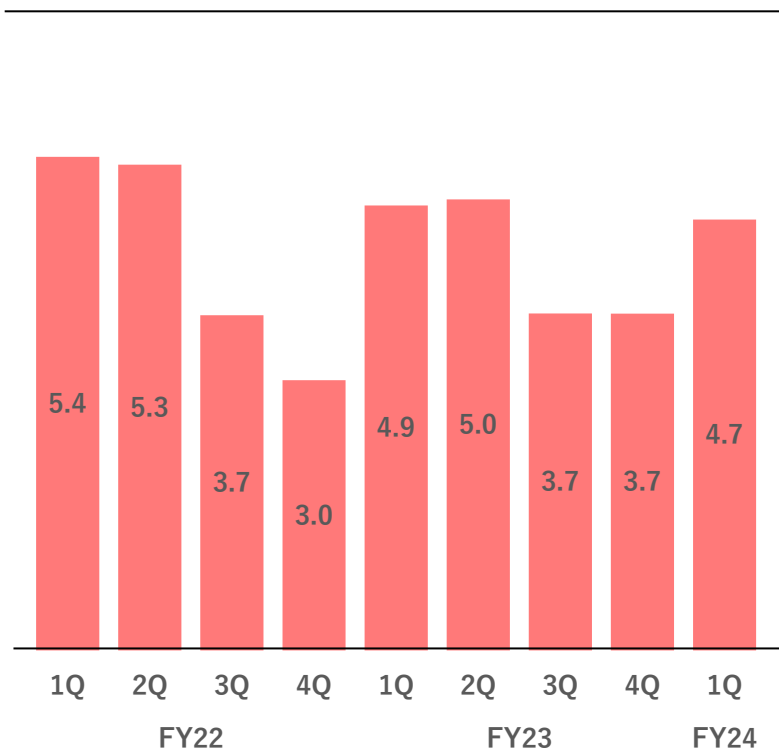
- 前年同四半期と比較して売上高が微減、EBITDAが3/4程度に減少
- IRISが10月の苦戦の影響を受けて前年比で大幅マイナス、第2四半期以降回復見込み
- IRIS以外の日本事業は、動画・Connected TV領域は順調に推移も、DSP等が苦戦し前年比マイナス

単位:億円

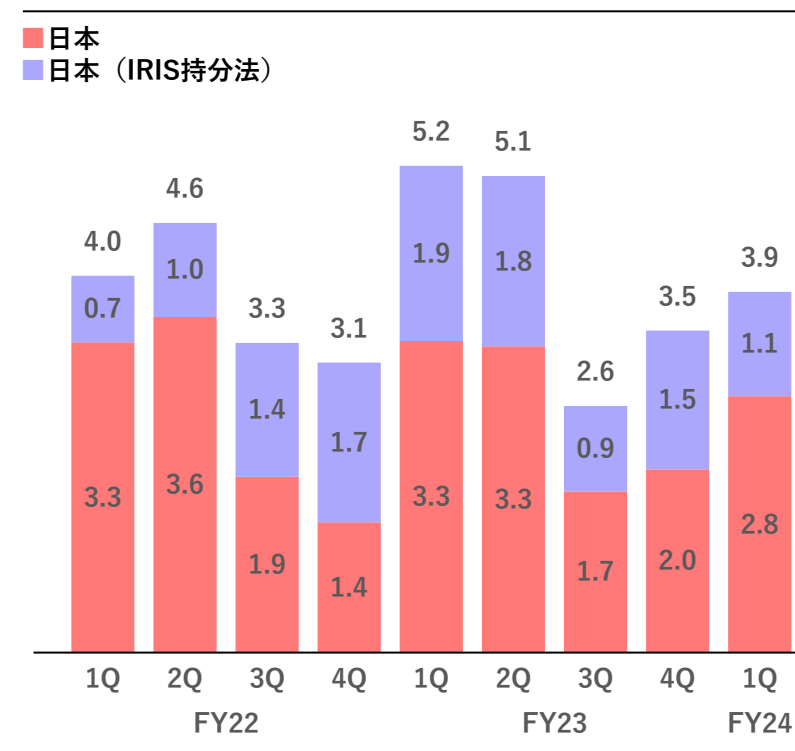
売上



売上総利益



EBITDA

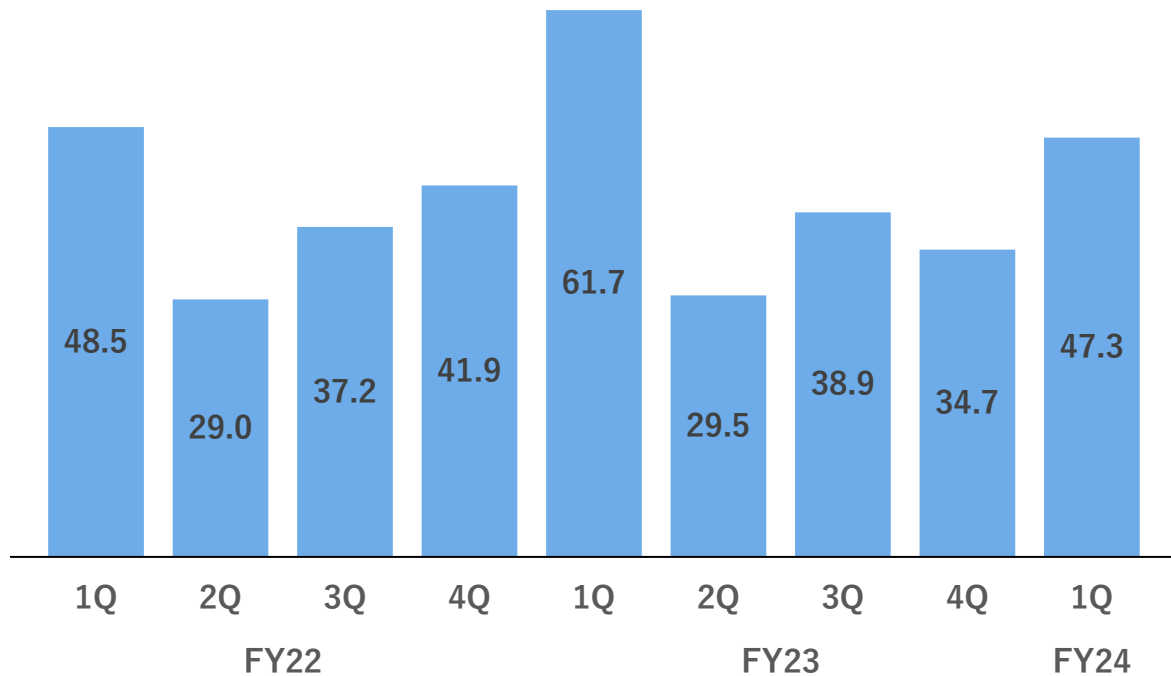


Section5 事業の進捗（北米）

- クライアントロストの影響で対前年比ではマイナスも、当初予想より順調に推移
- マクロの市況や広告単価の下落は引き続き沈静化
- 第3四半期以降は、新規クライアント獲得により回復/再成長を実現できる見込み

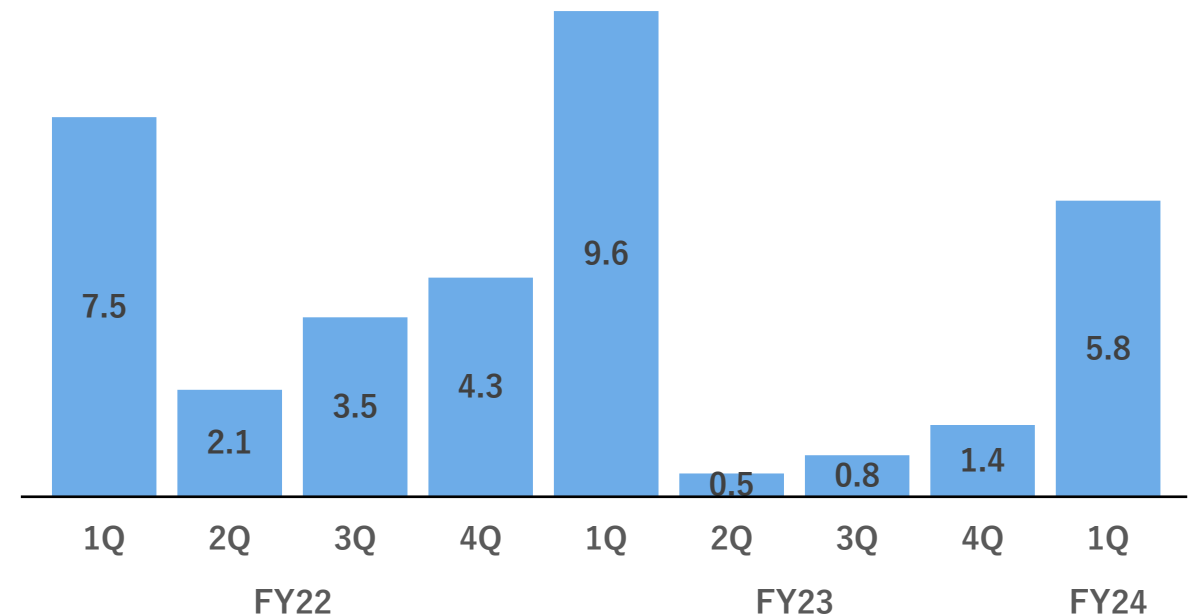
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円

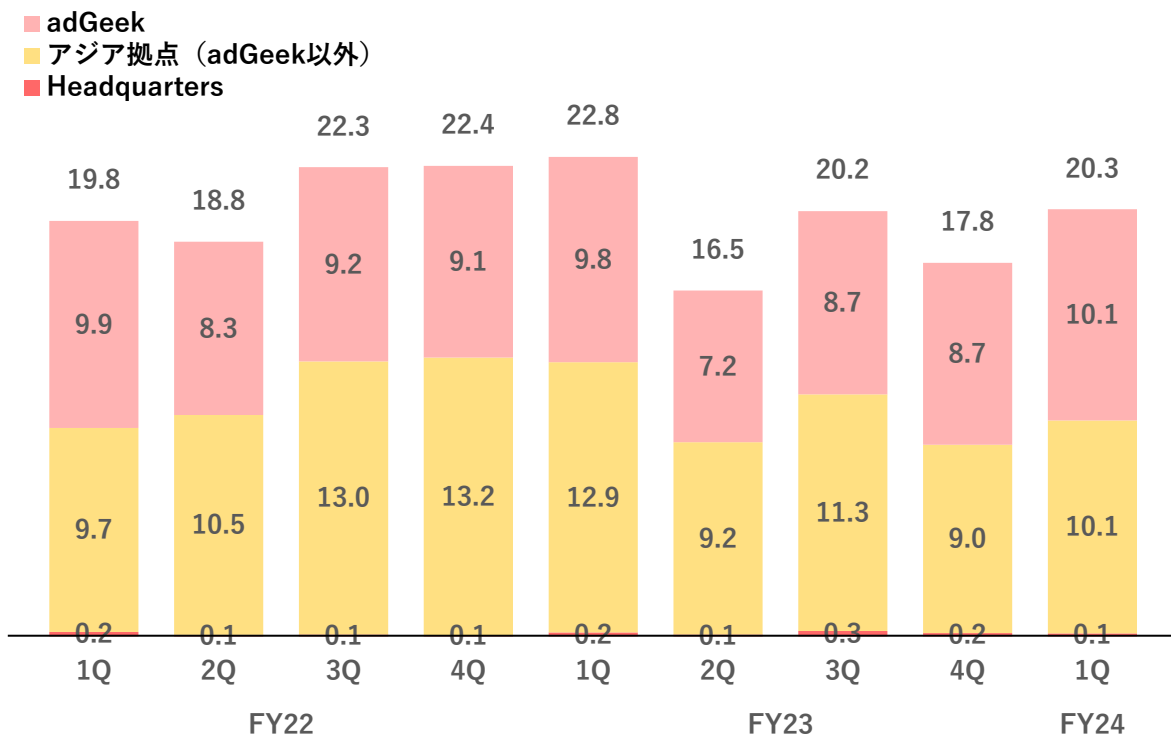


Section6 事業の進捗（アジア）

- 前年同四半期比で売上、EBITDAとも減少、中国事業が環境変化もあり苦戦
- 24年9月期以降は、GPのアジア展開に加えて、UUUM社との協業でアジア地域のインバウンド案件獲得等の事業シナジー実現に取り組む

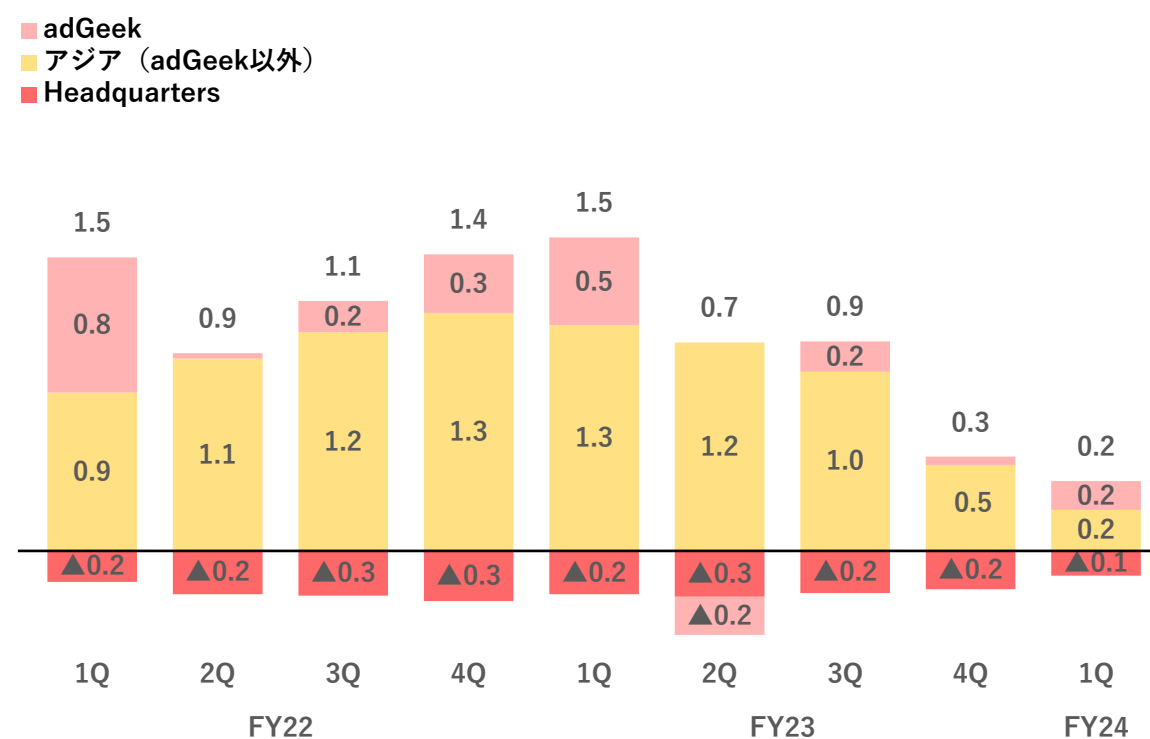
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



Section7 事業の進捗（インフルエンサーマーケティング）

- 当第1四半期よりPL連結を開始
- トラブル、撤退を決定したゲームタイトルの影響等を除くと、EBITDAは2.1億円
- 今後、プロダクト機能の強化などを通じて1年～2年かけて再成長を実現

単位:億円

		売上	粗利	EBITDA
実績	①第1四半期実績 (UUUM第2四半期)	54.6	15.5	0.9
特殊 要因	②トラブル事案		▲0.5	▲0.5
	③ゲームタイトル撤退関連		▲0.4	▲0.7
⑥ 正常収益力 (① - (②~③))		54.6	16.4	2.1

Appendix 1

会社概要

会 社 名	株式会社フリークアウト・ホールディングス		
設 立	2010年10月1日		
資 本 金	35億5205万円		
所 在 地	〒106-0032 東京都港区六本木6-3-1 六本木ヒルズ クロスポイント		
役 員 構 成	代表取締役社長 Global CEO	本田 謙	取締役（常勤監査等委員） 井出 博之
	取締役 CFO	永井 秀輔	取締役（監査等委員） 高田 祐史
	取締役 広告事業管掌	時吉 啓司	取締役（監査等委員） 松橋 雅之
	取締役	大元 伸一	
事 業 内 容	グループ会社株式保有によるグループ経営戦略の策定・管理		
発 行 済 株 数	18,022,924株		
主 要 株 主 * 1	本田 謙*2		35.12%*3
	伊藤忠商事株式会社		15.73%
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）		5.08%
	株式会社カストディ銀行（信託口）		4.58%
	BBH(LUX) FOR FIDELITY FUNDS - PACIFIC POOL		4.23%
	スカパーJSAT株式会社		3.72%

*1. 2023年9月末時点の主要株主の状況を記載

*2. 代表取締役である本田謙氏は資産管理会社MOTHERS OF INVENTION PTE. LTD.を通じて当社株式を保有

*3. 2024年1月11日付けで本田謙氏と共同保有者による財務局への変更報告書の通り、同氏の当社株式保有率は2023年12月29日時点で35.1%に増加した。

Appendix 2

業績補足資料

(単位:百万円)

	FY24 1Q	FY23 1Q	前年Q比	FY23 4Q	直前Q比
変動費	9,320 68.7%	6,596 67.7%	41.3%	4,582 70.7%	103.4%
開発人件費	127 0.9%	117 1.2%	8.3%	117 1.8%	7.7%
サーバー関連費	122 0.9%	110 1.1%	11.6%	117 1.8%	4.6%
その他	3 0.0%	0 0.0%	629.9%	1 0.0%	408.7%
売上原価計	9,572 70.5%	6,823 70.1%	40.3%	4,817 74.3%	98.7%

※金額の下に記載している%は対売上高比。主要事業の売上原価を比較するために、投資事業による売上・原価への影響を除いた。

（単位:百万円）

	FY24 1Q	FY23 1Q	前年Q比	FY23 4Q	直前Q比
人件費	1,912 14.1%	1,125 11.6%	69.9%	1,020 13.8%	87.4%
家賃・水道光熱費	182 1.3%	69 0.7%	162.7%	61 0.8%	200.9%
のれん償却費	106 0.8%	28 0.3%	272.9%	28 0.4%	284.2%
減価償却費	187 1.4%	97 1.0%	93.4%	118 1.6%	59.3%
外注・報酬等	273 2.0%	105 1.1%	161.0%	114 1.5%	140.3%
採用費	26 0.2%	9 0.1%	194.6%	15 0.2%	70.3%
販売費	239 1.8%	24 0.2%	912.9%	19 0.3%	1,166.7%
その他	705 5.2%	451 4.6%	56.1%	673 9.1%	4.8%
販管費計	3,630 26.7%	1,908 19.6%	90.2%	2,046 27.7%	77.4%

※金額の下に記載している%は対売上高比。

本資料の内容ならびに説明についてご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

お問い合わせフォーム：<https://www.fout.co.jp/contact/company/>

お問い合わせの種類：IR関連



FreakOut
Holdings

Give People Work That Requires A Person.